

令和 2 年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）進捗状況報告書

（令和 3 年 3 月）

報告者氏名・所属	水上 丈実・教職大学院旭川校
研究プロジェクトの名称	道徳と総合のアクティブ・ラーニングの授業づくりの浸透 —道北地方の卒業生へのフォローアップを目的に—
プロジェクト担当者 （氏名・所属・職） ※代表者に●を付すこと	●水上 丈実・教職大学院旭川校・教授 藤川 聡・教職大学院旭川校・教授
研究プロジェクトの概要等（期間全体）	
<p>1. 研究目的</p> <p>本プロジェクトは、教員養成機能における北海道の拠点的作用を果たし北海道の教壇に立っている多くの本学の卒業生の日々の実践に生かしてもらうため、フォローアップの一環として、アクティブ・ラーニングの授業づくりについての理論の研究・啓発を行うとともに、道北各地の優れた実践を紹介するための実践資料集を作成し道北の小中学校 400 校に配付する。特に、特別の教科となった道徳及びアクティブ・ラーニングの究極の姿となる探究的な学びが求められる「総合的な学習の時間」（以下、総合）の授業づくりについて、筆者らが教職大学院の授業で行っている理論を紹介するとともに、道北各地の優れた授業実践を集め、現在、教師に最も求められているアクティブ・ラーニングの授業力の向上に資することを目的とする。</p> <p>2. 研究方法</p> <p>現在、各学校においては、新学習指導要領の全面実施に向けて教育課題は山積している。一昨年度から小学校、本年度から中学校では特別の教科道徳が実施されていることや、小学校の外国語科・外国語活動、小中学校におけるプログラミング教育の実施などについて来年度から全面実施する体制を整えなければならない。そのためには、新学習指導要領に対応した教育課程編成が急務である。特に、各学校にはコンピテンシーベースで教育課程を編成するとはどうすべきなのかについて新学習指導要領の趣旨を深く理解することが求められると同時に、どのような教育課程を編成すべきかについて、その説明責任を問われている。</p> <p>こうした中で、本プロジェクトでは、教職大学院旭川校の授業開発分野の授業「学びとカリキュラム」「教科教育の実践と課題」「指導と評価の実践的展開」「総合的な学習の時間を創る」「授業づくりの実際」「道徳教育の諸理論と授業づくり」「教材開発・教材研究の方法と実践」「授業研究の理論と実際」の中で教示しているアクティブ・ラーニングについての考え方を整理し理論化する。そして、道北の小中学校と連携し、その理論に基づいて様々な授業実践を分析しそれらをまとめたものを実践集として道北地方の小中学校に配付することでフォローアップの一助としたい。</p> <p>そこで 1 年次（令和元年度）は、総合と道徳のアクティブ・ラーニングの授業づくりの理論化を行うとともに、道北地方の小中学校と連携し、実践の提供が得られる連携校を決定したい。筆者は、北海道教育委員会の学校力向上総合実践事業のアドバイザーや授業力改善推進事業の研究協力者を務め、過去 5 年間で 100 校近くの小中学校を訪問している。また、教職大学院旭川校の約 100 名の修了生が学校現場で活躍している。そうしたつながりを生かし、連携校・実践校を決め、協働して実践研究を進めた。</p>	

道徳については、それぞれの学校で、これまで課題とされてきた「心情主義的道徳」や「読み取り道徳」からの脱却を目指して工夫した授業が展開されている。しかしながら、内容項目のおさえが甘かったり、教科書の教材分析の仕方が不十分だったりしている実践も多く見られるため、今なお課題も山積している。そこで、アクティブ・ラーニングの授業づくりに欠かせない「この教材では内容項目をどこまで理解させるのか」という授業設計の在り方にも踏み込んでいきたい。そして、道徳科の授業も、目標と指導と評価の一体化を目指すことが肝要であることを啓発していきたい。

総合においては、アクティブ・ラーニングの究極の姿である探究を目指す必要がある。そのためには、児童生徒が確かな課題意識を持ち、自ら見通しを持ち、調査分析を行い、まとめ表現することで、概念的知識を獲得させることが求められる。そのような単元構成の基本原則を教師自らが明確に持てるような支援体制を整えたい。

2年次（令和2年度・本年度）は、理論に基づく実践を累積し、道北地方の小学校の実践を整理・分析し、実践集にまとめたい。実践集には、実際の授業を録画しDVDも添付したい。

3年次（令和3年度）は、理論に基づく実践を累積し、道北地方の中学校の実践を整理・分析し、実践集にまとめるとともに、優れた授業をDVDにまとめたい。

本プロジェクトでは、筆者らが教職大学院において授業開発分野の授業で教示しているアクティブ・ラーニングの考え方を理論化するとともに、道北地方で教師として活躍する本学の卒業生や本教職大学院の修了生のフォローアップに資する優れた実践を紹介していきたい。

本プロジェクトは、旭川校教職大学院の授業開発分野担当教員2名で行う。研究の役割分担は以下の表の通りである。

表1 本プロジェクトの研究分担

	氏名	分担
研究代表	水上 丈実（教授）	研究計画立案・理論構築（道徳）・連携校との調整 実践（道徳）のまとめ分析
研究分担	藤川 聡（教授）	理論構築（総合）、実践のまとめ分析（総合）
連携校 (道徳は依頼済) (総合は依頼予定)	<上川管内> 旭川日章小 ^⑤ , 旭川向陵小 ^⑤ , 旭川永山南小 ^⑤ , 旭川新町小 ^⑤ , 和寒小 ^⑤ , 名寄小 ^⑤ , 旭川明星中 ^⑤ , 旭川緑が丘中 ^⑤ , 旭川地区 生活科・総合的な学習研究連盟 ^⑤ , 旭川東五条小 ^⑤ , 士別上士 別小 ^⑤ , 富良野樹海中 ^⑤ , 幌加内中 ^⑤ , 附属旭川小 ^⑤ ^⑤ , 附属 旭川中 ^⑤ <留萌管内> 留萌潮静小 ^⑤ , 留萌緑丘小 ^⑤ , 留萌中 ^⑤ <宗谷管内> 稚内南小 ^⑤ , 礼文小 ^⑤ <オホーツク管内> 網走小 ^⑤ , 滝上中 ^⑤ , 西興部中 ^⑤ <釧路管内> 鶴居下幌呂小 ^⑤ <日高管内> 新冠中 ^⑤ <十勝管内> 大樹小 ^⑤ <根室管内> 別海中央小 ^⑤	

3. 本研究の着想に至った経緯など

筆者は、上でも述べたように北海道教育委員会の各種研究指定校に招かれ授業参観、授業への助言、講演を行うことが多い。そこでは、アクティブ・ラーニングの授業づくりについて学校一丸となって取り組んではいるものの、効果的な実践には至らない状況が見受けられ

る。その要因の一つに、急激な教育改革の中で、やらなければならないことが多すぎるものがあげられる。具体的には、特別の教科道徳の実践、外国語科の授業づくり、プログラミング教育の実施、その他、新学習指導要領の全面実施に伴う教育課程編成などが考えられる。加えて、働き方改革の実施が、それらに取り組む時間の捻出を困難にしている。その中で、じっくりと子どもと向き合い、この授業で「主体的とは、対話的とは、深い学びを実現するには」と考える研修の時間を確保するのにもまならない状況にある。

中央教育審議会の審議の経過や答申を見てもコンピテンシーベースのアクティブ・ラーニングの授業づくりには多種多様な理論的背景があることが分かる。一つは、ある特定の文脈における要求に対して、個人の内的属性を結集して応答する「統合的・文脈的アプローチ」による授業づくりである。二つ目は、能力をいくつかの要素に分割したうえで、特定の職務を表すコンピテンシー・モデルを組み立てる「要素的・脱文脈的アプローチ」に基づいた授業づくりである。また、三つ目には、まだコンテンツベースから脱却できない授業づくりも残っている。こうした流れは、中教審のワーキンググループの審議の中では論議されているものの、学校現場には下りてきていないのが現状である。

そこで、本学の卒業生や本教職大学院の修了生のフォローアップ、ひいては道北地方の教壇に立つ教師の資質向上に資するべく「道徳と総合のアクティブ・ラーニングの授業づくり」についての理論と質の高い授業実践の浸透を目的としたい。

幸いにも、旭川校教職大学院の修了生は100名を超え、道北の学校現場ですでに管理職になっている者、指導主事として指導的な立場で活躍している者、各学校で主幹教諭・教務主任・研修部長などのミドルリーダーとして活躍している者がおり、連携を図りやすい状況にある。その利点を生かして、更に、修了院生のネットワークも活用させてもらいながら、このプロジェクトを充実・発展させていきたい。なお、北海道教育委員会や旭川市教育委員会にも周知し、後援をいただきながら、プロジェクト研究を推進していく。

アクティブ・ラーニングに関する理論や実践が掲載されている書籍・文献は多数発刊されているが、自校の指導生徒の実態や自らの授業力にあったものは少ない。道北の学校現場に焦点を当てることで、活用できる価値のある実践集となると考えている。

進捗度	2	←番号を記入 1.順調に進んでいる 2.ほぼ順調に進んでいる 3.やや遅れ気味 4.遅れ気味 (進捗度が3もしくは4の場合、その理由や問題点等を記入願います。)
-----	---	--

研究実績の概要 (今年度)

1. 全道のアクティブ・ラーニングの授業改善のための研究会や「総合的な学習の時間」の研究会への参加とアクティブ・ラーニングの授業改善や「総合的な学習の時間」の授業づくりの実態把握

・令和2年度は、小学校学習指導要領の全面実施の年度であった。そのため、新学習指導要領の理念に基づき、コンピテンシー(資質・能力)ベースの「総合的な学習の時間」への転換が求められている。そこで、それを実現している授業づくりを行っている5校の実践を集めることができた。残念ながら、礼文小学校の授業参観はコロナ禍のために実現できなかったが、教育課程改善の中心の教頭先生と電話やメールでの何十回も打合せを重ねた。和寒小学校の和寒町の「ひと・もの・こと」の洗い出しを行い、総合的な学習の時間の単元構想に位置付けた実践、全道生活・総合的な学習の時間教育研究大会の会場校であった旭川市立向陵小学校の2つの実践、上川教育研修センターの「総合

的な学習の時間指導講座」で授業公開した旭川市立西御料地小学校の1実践、そして、大胆に1学年70時間を1大単元で構想した旭川市立大有小学校の教育課程の紹介を行うことができた。

- ・中学校は、今年度は新学習指導要領の移行期であったが、先取りしてコンピテンシーベースになっている4つの中学校の実践を把握することができた。コロナ禍での実践であったため、見学・調査をオンラインで行うなど、ポスト・コロナ、ウィズ・コロナを見越した実践を把握することもできた。留萌中学校の異学年集団での探究、附属旭川中学校の思春期真っ只中の中学生の心身の健康を扱った実践、旭川市立六合中学校の実践では、キャリア形成のためにオンラインであるからこそ話を聞くことのできる人からの知見は、実践の質を高めた。また旭川市立桜岡中学校の高等学校の探究を彷彿とさせる実践も特筆に当たる。

2. 道北地方の質の高い探究を目指した「総合的な学習の時間」実践事例集の発刊(令和3年3月)

- ・1で記載した質の高い実践(小学校5校、中学校4校)掲載することができた。どの実践も道北の「総合的な学習の時間」の教育課程編成や授業実践に役立つものばかりであると確信している。

- ・道北の小中学校の実践の質の向上に資すると考える点をいくつか述べる。

- ①全体計画の中で、「総合的な学習の時間」に育成する資質・能力を位置付けている点
- ②他教科で育成する資質・能力を活用することのできるようにした単元配列表を作成している点
- ③探究のサイクルを回している点
- ④地域の「ひと・こと・もの」を位置付けている点
- ⑤コロナ禍に対応できる実践になっている点

- ・実践事例集は3月末に発刊、道北地方の小中学校と教育委員会496に送付予定である。

北海道教育大学 学長戦略経費・重点分野研究プロジェクト
「道徳と総合的なアクティブ・ラーニングの授業づくりの模索」

「総合的な学習の時間」実践事例集



令和元年度～令和3年度 学長戦略経費

北海道教育大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻



旭川校教職大学院 教授 水 上 大 実

旭川校教職大学院 教授 藤 川 聡

教育現場や地域で活用可能な成果等

- ・実践集に掲載した小中学校の「総合的な学習の時間」の実践は、日々の授業の成果であり、他の小中学校においても実践可能である。また、全体計画や構想の仕方、そして、地域の「ひと・こと・もの」の取り入れ方など、今後、改善しようとするときに役立つものばかりである。
- ・授業実践集を各校に配付するだけでなく、メール等で構想の仕方や実践について、問合せをできるようにするとともに、研究協力校のシステムを構築し、年間を通して関わっていくことができるようにした。
- ・小中学校が取り組むべき新しい教育課題の一つである「探究の学び」について、学校体制で取り組んでいる9校の実践事例を紹介することで、それぞれの学校の「総合的な学習の時間」授業の質的向上に寄与したと考える。

研究成果の公表実績（今年度）	
	<p>【著書】</p> <p>「『総合的な学習の時間』小学校のカリキュラム-単元の作り方・構想の仕方-」（水上 丈実，北海道教育大学教職大学院「総合的な学習の時間を創る」第3週授業資料，2020年12月）</p> <p>「生活・総合への提言ー学びの対象への価値観を育てる総合的な学習の実践ー」（水上丈実、日本文教出版教育資料「生活&総合教室61」，2011年5月）</p>
	<p>【学術論文】（投稿中も含む）</p> <p>『「総合的な学習の時間」におけるカリキュラム開発ー教職大学院での院生の力量形成に焦点を当ててー』（水上丈実・藤川 聡，北海道教育大学研究紀要教育科学編 2014年 64巻 3号 p115～130）</p> <p>『総合的な学習の時間を軸とした関連指導の検討ー食育指導の充実に焦点をあててー』（因 雅仁・藤川 聡・水上丈実，北海道教育大学研究紀要教育科学編 2014年 65巻 2号 p411～417）</p> <p>「生き生きと活動し，創造的に学び合う子の育成～「生きる力」を育てる『知の総合化をめざして』～」（水上丈実，北海道教育公務員弘済会研究集録，2004年 12月）</p>
	<p>【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等】</p> <p>「旭川市教務運営交流会」にて，総合的な学習の時間の実践事例を紹介する（令和3年3月23日，旭川市立大有小学校，会員30名）</p> <p>『「総合的な学習の時間」の旭川市内小学校の実施状況と真の「生きる力」を育む方策』（水上丈実，旭川実践教育学会，2002年12月，約150名）</p>
	<p>【テキスト、報告書、研修資料等】</p> <p>『「特別の教科道徳」授業実践集-北海道内の小中学校の道徳授業実践事例の紹介を中心にー』（令和2年3月31日 496部 道北の小中学校と市町村教育委員会）</p> <p>『「総合的な学習の時間」実践事例集-道北地方の小中学校の実践事例の紹介を中心にー』（令和3年3月31日 496部 道北の小中学校と市町村教育委員会）</p>
添付資料	<p>①『「総合的な学習の時間」実践事例集』（水上丈実・藤川 聡，北海道教育大学学長戦略経費・分野別重点プロジェクト）</p> <p>②『「総合的な学習の時間」小学校のカリキュラム-単元の作り方・構想の仕方-』（水上 丈実，北海道教育大学教職大学院「総合的な学習の時間を創る」第3週授業資料，2020年12月）</p> <p>③『「総合的な学習の時間」小学校のカリキュラム-単元の作り方・構想の仕方-』（水上 丈実，北海道教育大学教職大学院「総合的な学習の時間を創る」第3週授業プレゼン資料，2020年12月）</p>
ダウンロード可能なドキュメント	上記3資料を下記URLに掲載（4月掲載予定）
関連URL	北海道教育大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）旭川キャンパス授業開発研究室 https://jugyo-asahi-hue.jimdofree.com/
問い合わせ先	氏 名： 水上 丈実 電 話： 0166-59-1426 E-mail： mizukami.takemi@a.hokkyodai.ac.jp